



かわさき♪ドレイク・ミュージック プロジェクト

Kawasaki♪Drake Music Project



めざせ! やさしさ日本代表!
かわさきパラムーブメント

 **BRITISH
COUNCIL**

障害のあるなしにかかわらず、
あらゆる人が音楽に親しみ、
創造性を発揮できる社会を実現するために

2021年8月9日、フェスタサマーミュージザKAWASAKI 2021のフィナーレコンサートで東京交響楽団による演奏で世界初演を迎える《かわさき組曲》は、川崎市とブリティッシュ・カウンシルが、英国のアート団体ドレイク・ミュージックと協働し、2017年より展開してきた、障害のある人がより積極的に音楽にかかわることのできる環境づくりを促進する日英共同プロジェクトから誕生しました。

2021年5月から7月にかけて川崎市内の特別支援学校3校の生徒27名と18名の教員、そして13名の日英音楽家がのべ20回の音楽づくりワークショップを行い、オペラ「アイダ」の音楽をインスピレーションに曲づくりを進めました。「アイダ」の豊かな音楽に触れ、生徒たちと音楽を通してさまざまな心理や感情を表現することを探求しながら、一緒に音楽を奏でる喜びを感じる時間を過ごしました。生徒たちが生み出すリズムやメロディ、思い思いに奏でる音を集めてできた曲は、生徒の個性や創造性だけでなく、ワークショップの雰囲気も捉えた作品になっています。

本来なら、英国からドレイク・ミュージックのメンバーを迎えて、日本の音楽家と一緒に学校でのワークショップを行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響で、今年は残念ながら来日は叶いませんでした。しかし、オンラインのビデオ会議ツールも活用して、日本の音楽家と密に連携を取りながら、英国からのビデオレターや、毎回のワークショップの様子を動画で共有することで日英共同での音楽づくりを実現しました。

生徒たちと創りあげた音楽を聴いた多くの方に、自己表現の方法としての音楽の力、そして障害のあるなしにかかわらず、誰もが音楽に親しみ、創造性を発揮できることの意義を感じていただければ嬉しく思います。

最後になりましたが、《かわさき組曲》の世界初演を迎えるにあたり、ご協力をいただきました関係者の皆さまに、心より御礼申し上げます。

川崎市
ブリティッシュ・カウンシル

プロジェクトのウェブページ：
<https://www.britishcouncil.jp/programmes/arts/drake-music>



英国ドレイク・ミュージックのメッセージ

《かわさき組曲》は、川崎市にある3つの特別支援学校の生徒によってつくられた組曲です。ヴェルディの偉大なオペラ「アイダ」にインスパイアを受け、27人の生徒一人ひとりがもつ経験や感情から紡ぎ出される音を集めて誕生しました。この生まれたばかりの曲を、日本を代表するオーケストラ、東京交響楽団が演奏します。

認知機能や身体などに障害があっても、さまざまなアプローチを試すことで音楽制作への扉は開かれます。今回、生徒たちと音楽づくりを進めた音楽家に対して一番大事にして欲しいと話したのは、生徒たちと楽しい音楽の時間を過ごすこと。一緒に時間を過ごすことで、一人ひとりの個性や創造性を引き出し、そこから音楽づくりができます。「どんなことが楽しいのかな?」「何が得意なんだろう?」「どんなときにイキイキとするのかな?」…… ファシリテーターである音楽家たちが、それぞれの生徒に寄り添い、耳を傾け、応え続ける。そして、ともに過ごすなかで、生徒たちが自分の内なる世界を表現できるようになり、たくさんの音が生み出されていく。それは、まさに魔法のような時間でした。生徒たちがどんどん自信をつけていく様子に、思わず息をのむこともありました。

出来上がった《かわさき組曲》は4つの楽曲で構成されています。生徒たちは4つのグループに分かれ、1つのグループが1つの楽曲を担当しました。各楽曲の核となる部分には、曲づくりのためのワークショップで生徒と音楽家が生み出した音やリズムを引用しています。これらの素材を拾い、調和させてオーケストラのさまざまな楽器によって演奏される曲が出来上がったのですが、毎回のワークショップの予測不可能な、ジェットコースターのような体験や各グループの生徒の個性も音楽を通して表現しています。

音楽の価値は、完成された「曲」や「演奏」だけにあるわけではありません。演奏を聴いたり、楽器を手にとって思い思いに鳴らしたり、自分のメロディやリズムをつくったり、音楽に触れる体験そのものが私たちの人生や世界を豊かにします。今回のプロジェクトに参加した生徒たちが、生涯にわたって音楽をつくり続け、自分自身を表現し、人とつながり、私たちの住む世界を祝福する手段として音楽を活用してくれることを心から願っています。

ドレイク・ミュージック 代表 ケレン・メイア
アソシエイト・ミュージシャン ベン・セラーズ

♪かわさき組曲ができるまで

《かわさき組曲》は、英国ドレイク・ミュージックの音楽家であるベン・セラーズと、日本の音楽家12名、川崎市内の3校の特別支援学校に通う生徒27名と教員18名でつくりあげたものです。2021年5月～7月にかけて、のべ20回開催された音楽づくりのワークショップを通して生まれました。組曲を構成する4つの曲の制作は、生徒たちの関心や特色を活かすかたちで進められています。そのプロセスを、ワークショップの様子とあわせてご紹介します。

参加校・担当音楽家：田島支援学校 桜校(グループ1) 武田国博、南條由起 / 東京交響楽団：鈴木浩司、多井千洋、新澤義美
田島支援学校 本校(グループ2&3) 浜野与志男、宮野谷義傑 / 東京交響楽団：中村楓子、新澤義美、久松ちず
中央支援学校(グループ4) 池野博子、大松暁子 / 東京交響楽団：蟹江慶行、中村楓子、新澤義美
英国ドレイク・ミュージック：ベン・セラーズ

プロセス① 出会い&自己紹介

特別支援学校の生徒たちとファシリテーターである6人の音楽家、そして東京交響楽団の音楽家たちがはじめて出会ったのは、2021年5月のこと。まずは自己紹介を兼ねて、生徒一人ひとりの名前を使ったメロディをつくりました。これは、名前が持つイントネーションや語感などを音として表現し直すアプローチです。

それぞれの“名前のメロディ”に合わせて、楽器の音を重ねたり、リズムにのってカラダを動かしたり、みんなで手拍子をしてみたり。そうやって、ひとつのメロディをベースにどんどん音をふくらませていきます。



事前に用意された楽譜はありません。すべての音はその場で生み出されます。これからワークショップを積み重ねて、生徒たちが思い思いに奏でる音やリズムを拾い集め、曲をつくりあげていくのです。だからこそ、一人ひとりの個性がそのまま曲に反映されていきます。けれど、最終的にどんな曲に仕上がるのか、それはまだ誰にもわかりません。

ワークショップの前後には、生徒たちをどうサポートすればいいのかを、英国のベンさんと日本の音楽家たちがじっくり話し合います。生徒の様子を振り返る時間はとても楽しく、ミーティングが予定の時間をオーバーすることも少なくありませんでした。



プロセス② 曲づくり

ワークショップでは、音楽家はあくまでもサポート役。曲づくりの主役は27人の生徒です。一緒に過ごす時間を重ねるにつれて、少しずつ打ち解けていき、生徒たちのリアクションもどんどん大きくなっていました。

音楽づくりは、オペラ「アイダ」を手がかりに進められます。ときには、みんなで「アイダ」の音楽を聞いてどんなふう感じたか、それぞれの思いを共有することも。たとえば「明るい気分になった」という感想が出てきたら、「明るい気分を音楽にするとこんな感じ?」と、東京交響楽団の音楽家が音で表現していきます。

走ることが得意な生徒に「速く走ってこんな感じ?」と聞きながら、音楽家がヴァイオリンで表現することもありました。曲に対して生まれた感想も、ミステリーが好きといった生徒の趣向も、いきいきとタンバリンを叩く生徒の個性も、すべてが曲づくりの“ピース”となるのです。



そして、生徒自身も自ら音を生み出します。チーンチーンとベルを鳴らしたり、自由にドラムをたたいたり、iPadでヴァイオリンの音色を再現したり。楽しい気分になったときに無意識に口ずさむ音も、大切なピースです。

ときには、「アイダ」の音楽だけではなくストーリーについて理解を深めた後で、生徒たちが言葉や絵、身体の動き、音を使ってオリジナルの物語をつくることもありました。リズム感のある生徒が多いグループは、東京交響楽団の音楽家と一緒にいろんなパーカッションを使って楽しみながら曲をつくっていました。そこで生まれたフレーズは、「アイダ」の《凱行進行曲》を再現するようなパワフルな旋律となって組み込まれています。



また、別のグループは、“名前のメロディ”を出発点に、自分たちならではの特徴的な音を生み出すことに力を注ぎました。身体の動きと音楽の関係性を探るため、まず生徒たちがダンスの振付やキャラクターの演技を考え、音楽家がそれを音で表現するという手法を用いて曲づくりを進めています。掃除機の音を再現したコントラバスや、今まで聞いたことのないようなアッチェレランド(だんだんテンポが速くなる演奏)に耳を澄ませてみてください。

プロセス③ 曲の完成

ワークショップの様子は、動画で英国にいるドレイク・ミュージックのメンバー、音楽家のベンさんと共有されます。ワークショップで生まれた音をベンさんが丁寧に拾いあげ、譜面に落とし込んでいくのです。

ときには、動画を見たベンさんから、「すごくいい音楽だったから、もう少し長く続けてほしい」といったリクエストが生徒に入ること。ワークショップと同様、ベンさんのメッセージも動画で、生徒たちに共有されます。コロナ禍の影響で遠く離れていても、英国のベンさんはいつも生徒たちのそばにいました。そうしたやり取りを重ねて、ついに27人の生徒による、全く新しい音楽が誕生したのです。

自分たちでつくった曲をみんなで聞いたところ、自分の名前のメロディや、自分が好きな音に気づく生徒がたくさん！あのときの手拍子も入っています。口ずさんでいた音は、トロンボーンとトランペットで表現されていました。

いつもは口数の少ない生徒も、自分の音を見つけるとカラダを大きく揺らして喜びます。

「これは自分たちの曲だ！」…そう感じているのが伝わってきました。すでにある譜面どおりに楽器を演奏するのとはまた違う、新たな音楽のかたちです。



最後のワークショップでは、生徒と音楽家が力を合わせて、できあがった曲の「タイトル」を決めることに。そして、曲を聞いてイメージする「色」についても話し合いました。

同じ曲でも、感じ方は人それぞれです。みなさんは、この曲を聞いてどんな色が思い浮かぶでしょうか。そして、この曲にどんなタイトルをつけますか？



グループ1 (田島支援学校 桜校) : 「えがおになれるばんそう」/ 緑色



グループ2 (田島支援学校 本校-1) : 「ふしぎなポケット」/ 青色



グループ3 (田島支援学校 本校-2) : 「きいろとりどり」/ 黄色



グループ4 (中央支援学校) : 「みずいろのスマイル」/ 水色

♪かわさき組曲の聴きどころ！ 作曲家より

第1曲：ふしぎなポケット (田島支援学校 本校-1)

このグループで特筆すべきは、中盤にある「マリンバのソロ」と「オーケストラの低音楽器」が織りなすダイアログです。チューバ、バストロンボーン、コントラバスのメロディは先生たちの名前を表現し、軽快なマリンバは生徒の演奏を反映したものです。生徒と教師の強い絆を強調するパートとなりました。



この曲の後半は、生徒のひとりが楽器奏者らをリードして手拍子を使った瞬間にインスピレーションを受けたものです。音楽家が、生徒の「名前のメロディ」に合わせて即興で演奏するなかでかたちづくられていきました。生徒たちの音楽的感性を、ワークショップを通して発見できた好例です。

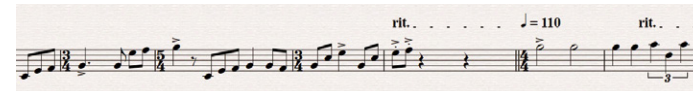


第2曲：えがおになれるばんそう (田島支援学校 桜校)

この曲には、5人の生徒がそれぞれ作曲した音の要素が含まれています。ヴァイオリンとヴィオラによる二重奏は、アプリのヴァイオリンを弾きながら発声する生徒と、それを真似てヴィオラでハーモニーを奏でる音楽家とのやり取りから生まれました。



そして、別の生徒の即興演奏を譜面に起こしたマリンバの演奏と、その生徒が作ったもう一つのメロディを演奏するトランペットの幻想的な音色が、この曲を締めくくります。



ベン・セラーズ (ドレイク・ミュージック、アソシエイト・ミュージシャン)

英国におけるテクノロジーを取り入れた音楽教育プログラムのパイオニア。教科書『Teaching Music with Garageband for iPad』をはじめとする音楽教材の著者。これまでBBC交響楽団、ロンドン博物館などの芸術機関や音楽フェスティバル、英国各地の音楽教育機関などを対象にトレーニングを行ってきた。音楽ワークショップを参加者や社会に変化をもたらすものにとらえ、現在は特に障害のある人の音楽へのアクセス向上に取り組んでいる。

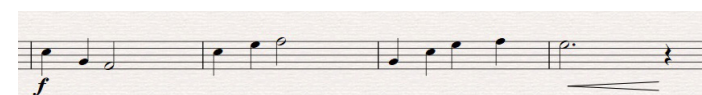


第3曲：みずいろのスマイル (中央支援学校)

《かわさき組曲》で最も印象に残るメロディは、このグループから生まれたものかもしれません。ここに紹介するフレーズは、ある生徒のニックネーム(さっきんちょ)を表現しており、ワークショップでは皆がひとつになって歌いました。トロンボーンが奏でる叙情的な旋律に注目してください。



最後のメロディは、壮大なヴェルディのホルンを彷彿とさせるもので、ワークショップで生徒が作った「パーティーの音楽」からできました。ときにシンプルな旋律が、より心を打つこともあります！



第4曲：きいろとりどり (田島支援学校 本校-2)

このグループは、特徴的な「名前のメロディ」をつくり出すことに成功しました。生徒の名前や性格、その時々を気分を音で表現しています。曲の後半では、そうした旋律を織り交ぜて、ヴェルディの《凱旋行進曲》と同じような雰囲気曲に仕上げています。



また、このグループには、エレクトリック・ギターが大好きな生徒がいました。彼の演奏するエレクトリック・ギターの、自由にメロディアスなエネルギーを、オーケストラの楽器で表現しようと試みたパートです。



プロジェクト参加音楽家メッセージ

池野 博子／声楽家 中央支援学校担当

言葉が出にくい生徒たちから出た短い「オ」という発話を短い旋律にして歌ったときには、満面の笑みで「オ、オ」と返してくれました。彼らの「オ」は言葉であり、音楽でもあり、オペラのレチタティーヴォ（話すような独唱）のようなものなのだと感じました。



大松 暁子／ヴァイオリン 中央支援学校担当

「みずいろのスマイル」は、笑顔がいっぱいつまった曲です。最後のメロディはパーティーをテーマにしています。「ケーキを食べたいな〜♡」という歌詞から、ケーキにトッピングする音楽をつくり、みんなで楽しみながらいろんな音ができました。ニコニコ、キラキラした生徒さんたちを思い浮かべながら聴いてください。



武田 国博／ピアノ 田島支援学校 桜校担当

生徒たちとのワークショップで音楽が生まれる場にいましたが、回を重ねる度にそれは変化し、深化し毎回発見がありました。そこには先生方のサポートが大きかったと思います。



南條 由起／ヴァイオリン 田島支援学校 桜校担当

「えがおになれるばんそう」の前半は、生徒さん一人ひとりが歌、楽器、ICTツールなどで自発的に表現したメロディがコラージュされており、マリンバの即興がフィーチャーされています。後半は活動を通して慣れ親しんだ「個々の名前のメロディ」が、まるで対話しているように彩られ、クラスの温かい雰囲気、輝きそのものが音楽になりました。



浜野 与志男／ピアノ 田島支援学校 本校担当

音楽が人々をつなぐメディアとなるよう願って演奏活動が続けてきましたが、今回のワークショップでかけがえのない思い出に恵まれました。作品のもととなった音は生徒の皆さんの発案によるものですが、背景には普遍的な感情があります。皆さまお一人おひとりの大切な記憶と重ねてお聴きいただけましたら幸いです。



宮野谷 義傑／指揮 田島支援学校 本校担当

ワークショップを通して「音楽」が心を開放し、世代も性別も障害の有無も軽々と超えて、心の深い所でしっかりと結びつけてくれました。「音楽」は繊細で優しい世界、興味津々の世界、エネルギーあふれる世界、心の世界の扉をゆっくり開けて見せてくれます。音楽と生徒さんたちの無限の可能性に惹かれてやみません。



蟹江 慶行／チェロ（東京交響楽団） 中央支援学校担当

生徒さんたちが楽器を手にしたとき、いろいろなメロディやリズムが自然と生まれてくることにとても驚きました。そんな皆さんがつくった躍動感あふれる自由な音楽をお楽しみください。



© N Ikegami

多井 千洋／ヴィオラ（東京交響楽団） 田島支援学校 桜校担当

複数にわたる訪問で、生徒さん一人ひとりの性格や好みを少しずつかんていく過程が、とても充実した時間でありました。



© N Ikegami

新澤 義美／ティンパニ&打楽器（東京交響楽団） 田島支援学校 桜校、田島支援学校 本校、中央支援学校担当

生徒さんたちの笑顔のなかで曲のもとになるメロディやリズムが生まれたので、とても楽しく、やさしい曲になっています。みんなが一つになって音を紡ぎ出すことができました。ピュアな心をもつ生徒たちから生まれる音楽に驚かされながら、私自身も笑顔でセッションを終えることができ、とてもうれしかったです。



© N Ikegami

鈴木 浩司／ヴァイオリン（東京交響楽団） 田島支援学校 桜校担当

生徒さんたちのアイデアが一つの曲となってお客さまの元に届くという、その過程に携われたことをうれしく思っています。



© N Ikegami

中村 楓子／ヴァイオリン（東京交響楽団） 田島支援学校 本校、中央支援学校担当

ワークショップでは、生徒の皆さんが自分らしさを臆することなく表現した素敵なモチーフをたくさん生み出してくださいました。その多様な個性を、個々を尊重して一つにまとめると、こんなにカッコいい作品ができあがるということを感じていただければ幸いです。



© N Ikegami

久松 ちず／コントラバス（東京交響楽団） 田島支援学校 本校担当

ワークショップの回が進むごとに生徒さんたちがリラックスし、また楽しもうとしてくださることがとてもうれしかったです。気づきの多い貴重な時間を、生徒や先生、また参加者の皆さんからいただいたと感じています。



© N Ikegami

♪原田慶太楼氏メッセージ



© Shin Yamagishi

“Unity(ひとつになる)”は、この楽曲を象徴する言葉です。通常、私たちは作曲家がひとりで作った楽曲を聞くことがほとんどですが、《かわさき組曲》は、障害のある27人の生徒たちがひとつになってできあがった作品です。

ブリティッシュ・カウンシル、ドレイク・ミュージック、東京交響楽団、そして川崎市の支援を得て私たちが達成したことは、実にユニークなものでした。この曲を聴くと、すべてのメロディ、すべてのハーモニー、すべてのフレーズの中に、参加者の面影を感じることができるでしょう。

プロジェクトの最大の特徴は、音楽を通じてコミュニティ同士の距離を縮めることです。完成した楽曲にはその軌跡が詰まっています。この取り組みがきっかけとなり、日本中で同じような活動が行われることを願ってやみません。《かわさき組曲》が、日本のクラシック音楽界にとって大きな一歩になると信じています。

社会は、調和と一体感をもたらすために常に最善を尽くすべきだと思います。お互いに楽しみ、すべての人の創造性を認めることができる、ボーダレスな社会を目指して…。

豊かな感情が散りばめられた、生徒たちの音楽をどうぞお楽しみください。



原田 慶太楼（東京交響楽団 正指揮者）

現在、アメリカ、ヨーロッパ、アジアを中心に目覚ましい活躍を続けている期待の俊英。シンシナティ交響楽団およびシンシナティ・ポップス・オーケストラ、アリゾナ・オペラ、リッチモンド交響楽団のアソシエイト・コンダクターを経て、2020年シーズンから、アメリカジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニックの音楽&芸術監督に就任。これまでに、国内外の様々なオーケストラと共演。オペラ指揮者としても実績が多く、パリアッチ、カルメン、ねじの回転、ドン・パスクワレ、連隊の娘、トスカなどを手掛けてきた。タングルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞受賞し、ナクソス島のアリアドネを上演。13年ブルーノ・ワルター指揮者プレビュー賞、14・15・16・20・21年米国シオルティ財団キャリア支援賞受賞。85年東京生まれ。インターロックン芸術高校音楽科において、指揮をF.フェネルに師事。オーケストラやオペラのほか、室内楽、バレエ、ポップスやジャズ、そして教育的プログラムにも積極的に携わっている。2021年4月より東京交響楽団正指揮者に就任
オフィシャル・ホームページ：http://kharada.com/



かわさきパラムーブメントについて

川崎市では、東京2020大会の開催を契機として、「誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくり」を目指すものとし、「人々の意識や社会環境のバリアを取り除き、誰もが社会参加できる環境を創り出す」ことを理念とした「かわさきパラムーブメント」を推進しています。
かわさきパラムーブメント公式ウェブサイト：https://www.city.kawasaki.jp/2020olypara/



ブリティッシュ・カウンシルについて

ブリティッシュ・カウンシルは、文化交流と教育機会を促進する英国の公的な国際文化交流機関です。私たちは文化芸術、教育、英語を通じて、英国とその他の国の人々の間につながりを育み、理解と信頼を築くために活動しています。2019年度は、8,000万を超える人々が私たちの活動に直接参加し、また7億9,100万人がオンライン、放送、出版物を通して私たちが提供する情報にアクセスしました。英国の公的な機関として1934年に王立憲章によって定められた非営利の公益団体(チャリティ)として設立され、主要な財源となる交付金の15パーセントを英国政府から受け取っています。日本では1953年に活動を開始しました。英会話スクールや英国資格試験の運営、教育機関・企業向け英語研修、英国留学情報の提供、英語教員への研修、高等教育や文化芸術分野での国際交流支援などを行っています。
ブリティッシュ・カウンシル公式ウェブサイト：www.britishcouncil.or.jp



ドレイク・ミュージックについて

英国のアート団体ドレイク・ミュージックは、25年以上にわたり、障害のある人に障害のない人と同じだけ、音楽活動に参加する機会、選択肢やサポートが存在し、音楽家として対等な関係で活躍することができる社会の実現に向け活動しています。あらゆる年齢層の障害のある人に向けたアクセシブルな音楽サービスを提供するほか、障害のある人の音楽へのアクセスをより向上するため音楽家や文化機関に向けたトレーニングも実施。さらには、障害のある音楽家のためにテクノロジーを駆使した先進的でアクセシブルな新しい楽器開発も行うなど、その活動は多岐に及んでいます。また彼らが媒介となり、音楽家や企業関係者、テクノロジスト、デザイナーが集い新しいアイデアを交換しプロトタイプを行う機会を積極的に作るなど、その領域を超えた取り組みに英国内外から注目が集まっています。
ドレイク・ミュージック公式ウェブサイト：https://www.drakemusic.org/



東京交響楽団について

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ58都市78公演を行う。さらに「VRオーケストラ」や電子チケットの導入、日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サービス『TSO MUSIC&VIDEO SUBSCRIPTION』をスタートしたほか、2020年3月にニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会を約20万人が視聴し注目を集めるなど、ITへの取り組みも音楽界をリードしている。音楽監督にジョナサン・ノット、桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人、特別客演指揮者に飯森範親を擁する。
東京交響楽団公式ウェブサイト：http://tokyosymphony.jp

発行年月日	2021年8月9日
発行者	川崎市、ブリティッシュ・カウンシル
著作権	ブリティッシュ・カウンシル 文章、画像の無断転載・複製を固く禁じます。



かわさき組曲 (2021)

Kawasaki Suite (2021)

- ① ふしぎなポケット
- ② えがおになれるばんそう
- ③ みずいろのスマイル
- ④ きいろとりどり

- ① Fushigi na poketto (The Magical Pocket)
- ② Egao ni nareru bansou (Music that Makes Us Smile)
- ③ Mizuiro no sumairu (Sky Blue Smile)
- ④ Kiitoridori (Yellow and Various Colours)

作曲：ベン・セラーズ

Composed by

モチーフ作曲：

Ben Sellers based on original music from

かわさき=ドレイク・ミュージック アンサンブル プロジェクト参加者

Kawasaki=Drake Music Ensemble Project participants

【田島支援学校 桜校】

生徒：福田翼 他 4 名

教員：新名主夕子 信岡真弓 畠山愛咲 松井大助

【田島支援学校 本校-1】

生徒：高林優巳 増淵彩 松島主門 丸山純平 八木唯斗
他 2 名

教員：飯本久代 石井亮 佐藤眸 渡部章太郎

【田島支援学校 本校-2】

生徒：木村誠也 古市椋大 山根颯真 吉川万絵
他 2 名

教員：齋藤聖子 西海正教 村上博樹 他 1 名

【中央支援学校】

生徒：小野世乃心 笠嶋未久 川澄昂輝 小林大希
菅田美羽 松澤咲季 松永瑞紗 武藤光次郎 他 1 名

教員：井上早苗 長島潤一 原田麻美 他 3 名

【音楽家】

池野博子 大松暁子 武田国博 南條由起

浜野与志男 宮野谷義傑

東京交響楽団：

蟹江慶行 鈴木浩司 多井千洋 中村楓子

新澤義美 久松ちず

【Tajimashien Gakko Sakurako】

Students : Tsubasa Fukuda and 4 others

Teachers : Asaki Hatakeyama, Daisuke Matsui, Mayumi Nobuoka,
Yuko Shinmyozu

【Tajimashien Gakko Honko-1】

Students : Junpei Maruyama, Aya Masubuchi, Shumon Matsushima,
Yuumi Takabayashi, Yuito Yagi and 2 others

Teachers : Hisayo Imoto, Ryo Ishii, Hitomi Sato, Shotaro Watanabe

【Tajimashien Gakko Honko-2】

Students : Ryota Furuichi, Seiya Kimura, Soma Yamane,
Mae Yoshikawa and 2 others

Teachers : Hiroki Murakami, Masanori Nishiumi, Masako Saito
and 1 other

【Chuoshien Gakko】

Students : Miku Kasajima, Kouki Kawasumi, Taiki Kobayashi,
Mizusa Matunaga, Saki Matuzawa, Koujiro Muto,
Tokinoshin Ono, Miu Sugeta and 1 other

Teachers : Mami Harada, Sanae Inoue, Junichi Nagashima
and 3 others

【Musicians】

Yoshio Hamano, Hiroko Ikeno, Yoshihide Miyanoya,
Yuki Nanjo, Akiko Omatsu, Kunihiro Takeda

Tokyo Symphony Orchestra :

Chizu Hisamatsu, Yoshiyuki Kanie, Fuku Nakamura,
Yoshimi Niizawa, Koji Suzuki, Chihiro Tai

UK IN JAPAN



本事業は日英交流年「UK in JAPAN」の主要プログラムの一つです。ブリティッシュ・カウンシルと駐日英国大使館が2019年秋より展開している「UK in JAPAN」は、アートや教育、ビジネスなどさまざまな分野で日本と英国の関係を一層緊密にし、未来志向型グローバル・リーダーとしての連携を更に深めることを目指しています。

かわさき♪ドレイク・ミュージック アンサンブル プロジェクト

主 催：川崎市、ブリティッシュ・カウンシル

特別協力：東京交響楽団

協 力：ミュゼ川崎シンフォニーホール（川崎市文化財団グループ）